

University
Current
Review

ISSN 0288-1748 2021(令和3)年 7月20日発行 [隔月刊]

[特集] コロナ禍における入試実施

大学時報

NO.399
2021. **07**



四日市看護医療大学



建学の精神「人間たれ」



本学園は2021年、75周年を迎えた。
ロゴマーク中の四葉のクローバーは
「愛情」「希望」「信仰」「幸福」を表す。
今後も「博愛主義」に則った教育を展開していきたい。

建学の精神「人間たれ」

「大学のたから」としては、母体である暁学園の学園綱領であり、本学の建学の精神である「人間たれ」という言葉がある。教職員をはじめ学生にも常に共有を図り、崇高な精神の育成に寄与していると考えている。

この「人間たれ」という言葉は、本学園の基礎ができつつある1950（昭和25）年に掲げられたものであり、学生のみならず児童や生徒たちを育てていくための実践的な指針となっている。「人間たれ」は「博愛精神」に貫かれており、いかなる時代が来ようとも変化することのない普遍性を示している。初代学園長五嶋孝吉は、「人間たれ」は「世の移り変わりがどれほど激しくとも人間教育のすべてである。その意味するところは広く深い『愛は

最高なり』ということと相通ずるものである。抜群の才能を持ち正義の人であっても、愛がなければすべては空しいことである。どのような科学が発達しようとも秩序整然たる社会が作られようとも、愛がなければ空虚なものとなり、勝者の権力も敗者の愛情に遠く及ばない」と述べている。

この「人間たれ」の精神に基づき、平和と民主主義の希求や教育機会の保障、総合的な生きる力を持った自立した人材の育成に邁進している。

学園歌の中にも「摘めば萎るる花よりも愛は真珠の輝きぞ」と博愛精神を象徴する歌詞を高らかに謳い上げている。

大学時報

2021.07／NO.399

CONTENTS

96	90	86	80	76	74	72	66	58	54	48	38	36	34	18	10
						ずいそう	祖父の卒業証書 小串和夫							座談会	キャンパスライフとは何か 北條英勝／加藤恵津子／松下琢／宮間純一／(司会)山田健太
														特集	コロナ禍における入試実施 第3ピリオドを目前にして—近畿大学入学試験での感染症対策のこれまで— 古久保潤一 「実践知」を体現したコロナ禍の入試 金子大輔 コロナ禍における入学試験の実施について 森脇裕美子 コロナ禍での大学入試準備、実施を振り返る 飯山晴信 オンラインを活用した入試の実施と可能性 —総合型選抜、学校推薦型選抜での活用事例を通して— 井上隆信 コロナ禍における入学者選抜の実施—東北学院大学の対応— 七海雅人

だいがくのたから 四日市看護医療大学

大学点描 敬和学園大学

巻頭言 地域循環型社会の拠点 山田耕太

視点 地方に位置する大学のミッション 尾池守

座談会 キャンパスライフとは何か

北條英勝／加藤恵津子／松下琢／宮間純一／(司会)山田健太

特集 コロナ禍における入試実施

第3ピリオドを目前にして—近畿大学入学試験での感染症対策のこれまで— 古久保潤一

「実践知」を体現したコロナ禍の入試 金子大輔

コロナ禍における入学試験の実施について 森脇裕美子

コロナ禍での大学入試準備、実施を振り返る 飯山晴信

オンラインを活用した入試の実施と可能性

—総合型選抜、学校推薦型選抜での活用事例を通して— 井上隆信

コロナ禍における入学者選抜の実施—東北学院大学の対応— 七海雅人

ずいそう 祖父の卒業証書 小串和夫

小特集 オンライン留学の課題と可能性

「学びの継続」から「期待に応える」へ—亜細亜大学のオンライン留学— 柿内利宏

長期・短期オンライン留学への対応

—明治大学国際教育センターでの取り組みと課題— 菊地端夫

バーチャル留学の課題と可能性 熊谷嘉隆

コロナ禍期のCOIL型教育とポストコロナ禍期での展開 池田佳子

私の授業実践 教育現場の最前線から

オンラインから始まったゼミ—仏教学の研究指導を事例として— 戸次顕彰

表紙：ヤナギ

ヤナギ科ヤナギ属の落葉樹の総称。早春に花をつけた後、緑の葉が美しく茂る時期の柳を夏柳、葉柳とも呼びます。古代中国の天文学で用いられた二十八宿という星座の1つ、柳宿(和名:ぬりこぼし)は、8つの星から成る形が、柳の枝に似ていることから名付けられました。

98

明日への試み

京都精華大学メディア表現学部

新しい価値を創造し、社会課題の解決に挑む 吉川昌孝

加盟校の幸福度ランキングアップ《自由研究編》

社会に開かれた大学を目指してー人類学博物館の小・中学生向け講座ー 奥田隆明

「オープンテックノキッズ」が果たす役割 山下修

特長を生かした独自性の高い広報ー東洋大学オリンピック・パラリンピック連携事業

Webコンテンツ「妖怪 meets SPORTS」ー 東洋大学総務部広報課

クローズアップ・インタビュー

認定NPO法人マギーズ東京 共同代表理事

訪問看護師・保健師 秋山正子さんに聞く (聞き手) 外川智恵

日本私立大学連盟の提言・主張

新型コロナウイルス感染症に伴う授業及び感染防止策に関する要望

新加盟大学・新加盟大学会員代表者紹介

東京国際大学

新会員代表者紹介

白鷗大学／広島女学院大学／神戸女学院大学／

神戸海星女子学院大学／九州産業大学／ノートルダム清心女子大学／

拓殖大学／四日市大学・四日市看護医療大学

新学長紹介

福岡女学院大学／芝浦工業大学

執筆者・出席者のご紹介(掲載順)

私大連ニュース・私大連TOPICS

130 編集後記

128 126

125

121

120

118

110

108 106 104

敬和学園大学のキャンパスで、人間性を豊かにする真の学びと友人と教師に出会い、あなたが本当に好きなことを学び、その学びを深めてください。そうすることで、大学を卒業する時のあなたは、高校を卒業した時よりも、より成長して、自由闊達で生き生きとした人になっていることでしょう。

Veritas liberabit vos. 真理はあなたたちを自由にする。

 敬和学園大学



好きなことを自由に学び、 成長していく 4年間

敬和学園大学のカリキュラムは、3学科9コースと学科を越えた7つのディプロマ（修了証を発行する）プログラムで構成されています。毎年400ほどの科目が提供される小さな総合大学です。学生の興味と関心が深まるにつれて、自分の学科の学びを中心にしながら、学科の枠を越えて自由に選択できるカリキュラムになっています。

その目指すところは、「真理はあなたたちを自由にする」という言葉をモットーにした、リベラルアーツ教育です。すなわち、各科目の学びを通して多角的な視点で物事を見る力を養い、本当のことを知って身体的にも精神的にも自由になり、魂の深みから解放される教育です。

A young man with dark hair, wearing a green sweater, is sitting at a wooden desk in a library, reading an open book. He is seen from the side, looking towards a large window. In the background, another student is seated at a desk, and the view outside the window shows lush green trees. The lighting is bright and natural, suggesting a sunny day.

敬和学園大学が求める学生像

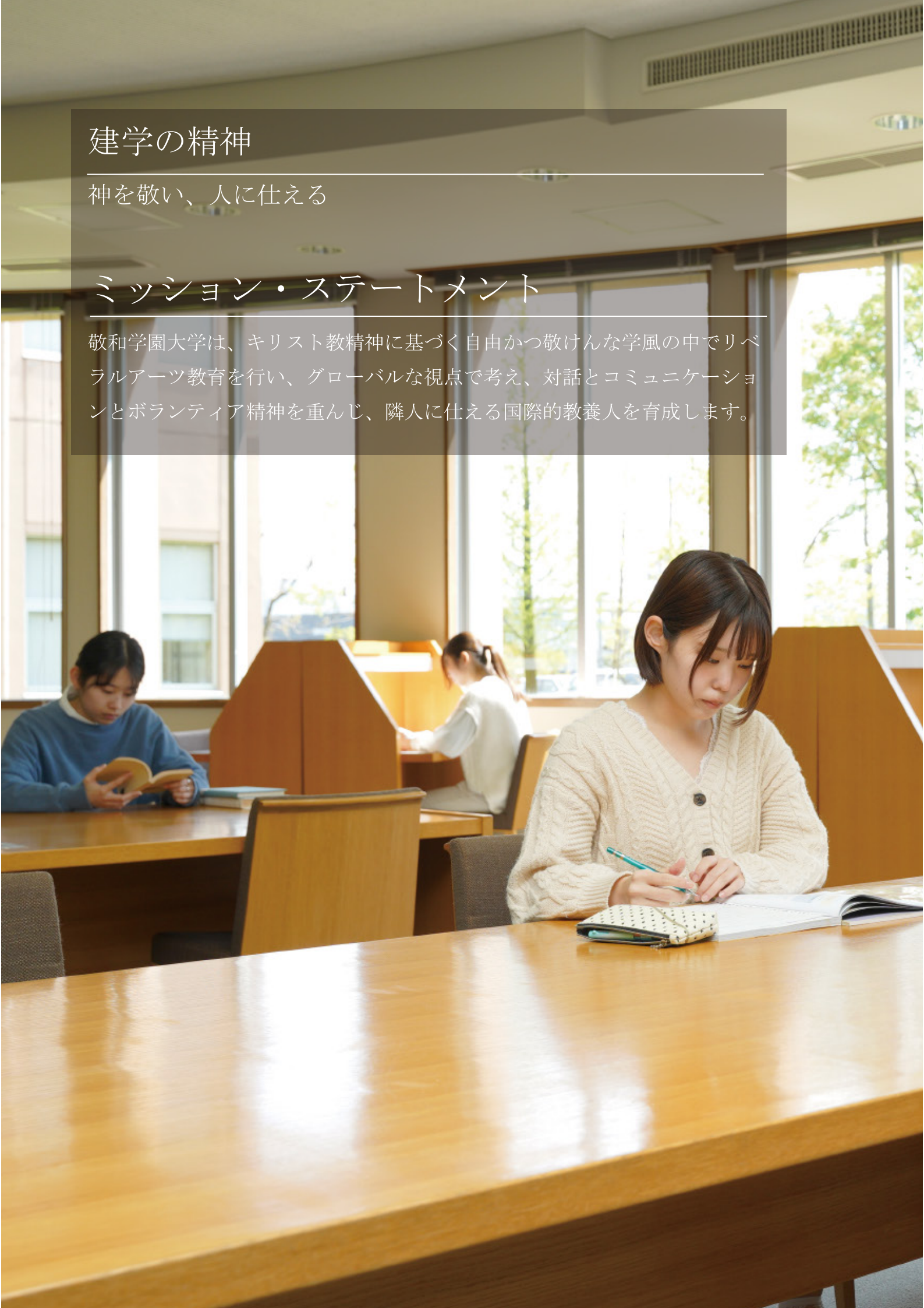
1. グローバルな視点に立って考え、対話とコミュニケーションとボランティア精神を重視する、国際的教養人をめざす人。
2. 敬和学園大学における学びを通じて、「人間とは何か、人生をいかに生きるか」を考える意欲を持つ人。
3. 真理と自由を探求する意欲があり、人の役に立ちたいと考える人。

建学の精神

神を敬い、人に仕える

ミッション・ステートメント

敬和学園大学は、キリスト教精神に基づく自由かつ敬けんな学風の中でリベラルアーツ教育を行い、グローバルな視点で考え、対話とコミュニケーションとボランティア精神を重んじ、隣人に仕える国際的教養人を育成します。



敬和学園大学と新発田市が連携し、学生の成長をサポート

地域循環型教育の一角を担う

学生寮



敬和学園大学 学生寮だからできる、大学生活があります!

自分たちでデザインする寮生活

同じ大学の仲間との寮生活、運営は学生自治で行われます。みんなで同じ時間を過ごし、共に考え、時にはぶつかり、話し合う中で、自主性と協調性が磨かれていきます。アパートや実家での暮らしでは得られない経験が「学生寮」にあります。



みんなが納得できる寮生活をデザイン

人とつながって生きる経験

リベラルアーツの学びを深めるため、大学と新発田市が連携し、学生寮ならではのイベント等を開催し、地域への貢献と学生の成長を促します。寮生同士や地域の方々との交流の中で、社会人として身につけるべき自主性や協調性、コミュニケーション力、リーダーシップを養います。



共同生活、寮イベント、地域活動での出会い

University Current Review

大学時報

2021.07 / NO.399



地域循環型社会の拠点

山田 耕太 敬和学園大学長

本学は昨年コロナ禍の中で創立30周年をさ
さやかに祝った。地域循環型教育に力を入れて
いる。教育の三方針（キリスト教教育、国際理
解教育、地域貢献教育）の中で、地方創生の視
点で地域貢献教育を柱にした中長期ビジョンを
12年前に定めた。今年から第2サイクルに入る。
その間に大学敷地内にグループホームを開
設し、産官学連携の駅前再開発事業で駅前に
学生寮を建て、地域貢献の文学賞「阿賀北口
マン賞」を「阿賀北ノベルジャム」に刷新した。
今後も地域の「社会的共通資本」であるとい
う自覚を大切にしていきたい。

地方に位置する大学のミッション

尾池 守 石巻専修大学学長

はじめに

私立大学の強みは、各大学の建学の精神に基づいた主体的で多様性のある教育研究の推進だと考える。石巻専修大学は1989年に学校法人専修大学の建学の精神「社会に対する報恩奉仕」の下、石巻圏域で唯一の高等教育機関として創立し、教育・研究活動を展開してきた。そして、現在は21世紀ビジョン「社会知性の開発」を理念として掲げ、「学生第一主義」を基本に置いた大学運営を行っている。ここで社会知性とは、専門的な知識・技術とそれに基づく思考方法を核としながらも、深い人間理解と倫理観を持ち、地球的視野から独創的な発想により主体的に社会の諸課題の解決に取り組んでいける能力のことである。さらにこの建学の精神と理念を踏まえ、教育目

標として「社会の諸問題に、自分の役割を自覚して取り組むために、生涯にわたって学び続けることができる人材を、実践的な教育によって育成する」ことを掲げている。

少しかだけ歴史を紐解くと、本学は理工学部4学科・経営学部1学科の2学部5学科体制で1989年に開学した。1993年には大学院理工学研究科および経営学研究科に修士課程を設置し、1995年には理工学研究科に、1997年には経営学研究科にそれぞれ博士後期課程を設置した。ところで、開学以来の最大の危機は2011年に発生した東日本大震災であった。この大震災により本学においても6名の在学生の尊い命が犠牲となった。

1. 東日本大震災からの10年

さて本学は震災直後から、被災地域の一員として、防災と復興に関する事業を行い、研究と教育の高度化や復興を担う人材の育成を目指す「復興共生プロジェクト」を機動的に展開した。それと並行して、石巻専修大学が行った最大の改革は、人間学部の新設と理工学部2学科の改組だった。人の復興や心の復興には、地域社会の文化と伝統を理解し、地域の活性化を担う人材の育成や、元気な子供たちを育てるために初等教育を担う人材の確保が急務の課題だった。石巻圏域からの強い要請も踏まえ、2013年に人間文化学科と人間教育学科からなる人間学部を新設した。これにより学問領域の異なる理工学部、経営学部、人間学部の3学部体制となり、3学部7学科、2研究科を擁する小規模ながらも総合大学になったと自負している。最大被災地に位置する大学として本学が取った対応、地域社会への貢献、ならびに課題等については、1年後の2012年3月11日から6年後の2016年3月11日に発行した「東日本大震災 石巻専修大学報告書 第1号」第5号※」にまとめている。大学ホームページから閲覧できるので、今後の備えとしてご一読いただければ幸いである。



さて、私事で誠に恐縮だが、震災の当日、石巻の大学には行かず、約50km離れた仙台中心部の東北大学片平キャンパスで開かれていた日本航空宇宙学会北部支部主催のシンポジウムに出席していた。しかもまさに自分の研究発表中で、そろそろやめないと司会者から注意されるかなと思った矢先、大自然から長大な警告を受けたのである。数分間にわたる長い揺れが収まったとき、会場内に残っていたのは、発表者と共同研究者の2名だけだった。その後屋外に退避したが、余震が一向に収まる気配もなくシンポジウムも閉会することが決まった。15時半頃、近所に住む仲間2人と連れだって、南南西に約30km離れた自宅を目指して歩き始めた。仙台中心部は停電のため一部の信号が機能せず車と人で渋滞状態だった。淡い期待を抱いてたどり着いたJＲ東北本線長町駅は暗く静まり返っており、JＲも運行を停止したことを実感した。その後は、雪にも、余震にも、津波にも、空腹にも負けずひたすら東北本線と国道4号に沿って南下し、21時半頃自宅に到着した。ここでも淡い期待は裏切られ、ライフラインの途絶えた拙宅は陸の孤島と化していたのである。因みに、拙宅のある柴田町で電気が復旧したのは4日後、水道は



大教室での授業風景(進路ガイダンス)

12日後、インターネットは11日後だった。そのため、津波の被害を免れた本学が近隣住民の避難場所と災害対策拠点の一つとして活用されていることを確認できたのは4日後だった。

水道が復旧した翌日の3月24日に、遅きに失した感があったが、震災後初めて大学に顔を出した。道中目にした津波の惨状は直視に堪えないものもあったが、津波を免れた大学では建物自体の被害の少なさにちよつと安堵した。

その状況も踏まえて、5号館1階に石巻市社会福祉協議会の本部が設置され、グラウンドはボランティアの方々のテントで埋め尽くされるようになった。その光景に復興への活力を感じたことを覚えている。協議会の記録によれば、総計で3233のボランティア団体の登録があったとのこと、ボランティアの方々をはじめとして復興を支援していただいた一人ひとりの皆様に心より感謝申し上げます。

大学本館の正面入り口のところに白い大理石のモニュメントがある。このモニュメントは、東日本大震災で犠牲になった石巻専修大学の6人の学生をはじめ、卒業生や学生のご家族の皆様を追悼するために、彫刻家の久保健史さんに作っていただいたもので、日本語名は「明日のむこう

には」である。ところで、「明日のむこうには」とは何を意味しているのだろうか。単純に考えると「未来」だろうか。10年経った今では、次の10年に向けた未来であろうか。

2. 地域社会と共生する大学

本学では、自己点検・評価活動と内部質保証の取り組みを進展させるため、2018年度に様々な基本方針を整備した。その中には「社会連携・社会貢献に関する基本方針」も含まれており、本学が開学以来、開放センターを中心に取り組んできた地域活動の実績等も踏まえて次の4点に集約し、今後とも堅持すべき方向性としている。

- ① 本学は、教育研究活動の成果を広く社会に還元し、石巻圏域を中心とした協定自治体等との連携を図りながら地域社会の発展に寄与する。
- ② 大学の施設等の物的資源、教職員や学生等の人的資源、教育研究活動によって得られた知識や経験等の知的資源を活用して社会に貢献する。
- ③ 自治体等との連携活動、公開講座等を含む知の発信及び広報活動、国際交流活動等を行う。

④社会連携・社会貢献活動は、学生及び教職員の教育研究活動の向上につながるものとする。

このような基本方針に基づいて、本学が近年行っている地域連携活動の中、2つの取り組みについて紹介する。1つは私立大学ブランディング事業である。東日本大震災から5年(申請時)が経過し、被災地にある大学としては、地域のさらなる発展のために復興の先を見据えた取り組みが求められた。それを踏まえ、地域の資源の新たな結合によつて産業を創出し、雇用へとつなげていく研究を推進することが、本学の研究ブランド(独自色)であると考えた。これは、地域とともに歩んできた本学ならではの発想に基づくもので、これまでもこれからも「地域課題の解決に取り組む石巻専修大学」という研究姿勢を貫くとともに、地域貢献ひいては地域の活性化や産業創出等につながるように、より一層の意欲を持って取り組もうとするものであった。

石巻専修大学の研究ブランディング事業は、震災等の影響で利用されなくなった耕作放棄地等において牧草などを栽培し、それを原料として餌を作り、内水面(陸上の

養殖水槽)において魚介類を育てる循環型内水面養殖の試みである。生物・環境・情報工学など知の融合によって技術開発を進め、新しい養殖法の確立を目指し、さらには、経営学や人間学の視点も取り入れて事業化や人材育成につながるよう発展させるもので、研究期間は2016年度～2018年度の3年間だった。

この事業には、メインテーマの「震災復興から地域資源の新結合による産業創出へ」と、サブテーマの「草葉起源による内水面養殖業の創出」の2つの意味が込められている。本学では、事業期間終了後もこれらのテーマを継続することにした。メインテーマは、今後とも堅持していく本学の研究姿勢となるもので、広く地域課題の解決に資する研究への取り組みを推進することにより地域貢献に努め、研究ブランド力の向上を図ることである。そのため、学内助成制度の見直し等も行い、地域資源の新結合による産業創出へつながる研究を進めている。サブテーマは、今回得られた草葉起源の餌料や、内水面養殖技術に関する貴重な知見について、内部資金等を使いながら応用も視野にさらなる検証を進めている。

2つ目は高大産連携プロジェクトである。このプロジェ



少人数での授業風景(経営学部情報マネジメント学科)

クトは、「地域の人材育成と活性化」を共通のテーマとして、石巻圏域の高等学校、大学、産業との連携によるプラットフォームを形成し、3者協力のもと、圏域の資源に対する理解を深めながら、各々の強みや特色を最大限に引き出す取り組みだ。大学の特色だけでなく、地域の特色につながる事業への発展も目指している。この取り組みは、全国に先駆けて2016年度にスタートした。毎年度末の2月上旬には、石巻地区高等学校長協会と本学の主催で、高大産連携プロジェクト報告会を開催している。プロジェクトに参加した高校生や大学生、ならびに支援していただいた企業の方々からは高い評価をいただいている。これらの活動の受け皿として、2019年度には本学が事務局となって、石巻地域コンソーシアムを立ち上げた。本学は情報を核とした社会連携活動を今後とも強力に推進する所存である。

3. 次の10年に向けて

文部科学省の「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン(答申)」における提案、世界的規模の取り組みにまで広がっているSDGs(Sustainable Development

Goals: 持続可能な開発目標)や、「未来投資戦略2018」において「AIをはじめ一連のデジタル技術のシステムがもたらす Society 5.0 (超スマート社会)により、人口減少や高齢化等の様々な課題を解決し、持続可能でインクルーシブな社会の実現を目指す」という提案もなされている。このような社会的・政策的背景を鑑みても、少なくとも今後10年を見据えた改革が、本学において必要不可欠だと考えた。

2019年度に創立30周年を迎えたのを機に、本学は、今後10年を見据えた「中長期ビジョン」に基づく教育課程の新編を進めている。直近の5年間のビジョンでは、建学の精神・理念・目的を具現化するための教育研究活動を推進し、学生の学習環境をより一層整備して、「社会の諸課題解決に活用できる知識・技能を修得した人材の育成」を目指す。

また、学生一人ひとりが夢の実現に向けて飛躍できるように、時代の変化と社会の要請に応答しつつ、建学の精神に基づき、学部、学科における教育研究上の理念、目的を明確にし、独自性を発展的に実現するため、2021年4月1日に経営学部情報マネジメント学科を新設し

中長期ビジョン

(2020～2024年度)

-1-

社会の諸課題解決に活用できる知識・技能を修得した人材を育成する

-2-

教育研究活動を充実させる

-3-

学習の質を向上させる環境を整備する

た。地域に根ざした問題解決型の経営学科と、ヒト・モノ・カネの動きから集積したデータを社会科学的に意味づけ、価値の高い情報として世界に発信する情報マネジメント学科が共存する経営学部を構築している。

さらに、2022年4月には、理工学部と人間学部の教育課程の新編を進める。理工学部では、生物科学科と食環境学科を発展的に統合し、多様な生物資源とそれを育む豊かな環境を保全する生物科学科に新編する。新生物科学科は、「海洋生物・環境」、「動物・植物」、「微生物・生命分子」、「自然科学」の4つのコースで構成し、各コースに養成する人物像・ポリシーを定め、1つのコースが1つの学科のように機能する。既存の工学系2学科（機械工学科と情報電子工学科）については、今後の産業および社会に必要な不可欠であるIOTやAIなどの技術について複合的な基礎知識を備え、Society 5.0やSDGsに対応できる次世代エンジニアを育成する計画である。また、人間学部人間文化学科では、「異文化理解・芸術文学」、「地域社会支援」の2つのコースに集約し、学生が明確な意義を持って専門分野の学修ができるように新編する。

これらの改編を持続的に推進することで、石巻専修大

学は、社会知性で地域社会を支える「地域に根ざして世界に尖った大学」を目指していく。

昨年度は大学基準協会に第3期認証評価を申請し、今後7年間の認証を賜った。その際、改善課題や是正勧告を含む様々なご指摘もいただき、これらの改善に努める所存である。今後も、皆様にご支援・ご鞭撻をいただければ幸いである。

※ 東日本震災石巻専修大学報告書第1号〜第5号
https://www.senshu-u.ac.jp/ischinomaki/social-contributions/fukkou/shinsai_report.html